



2022年7月29日

各位

会社名 カンロ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 三須 和泰
 (コード: 2216 東証スタンダード)
 問合せ先 取締役常務執行役員 CFO
 財務・経理本部長 阿部 一博
 (TEL. 03-3370-8811)

株式報酬制度における第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、株式報酬として自己株式の処分（以下「本自己株式処分」といいます。）を行うことについて決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 処分の概要

(1) 処 分 期 日	2022年8月16日
(2) 処分する株式の種類及び数	当社普通株式 44,000 株
(3) 処 分 価 額	1株につき 888 円
(4) 処 分 総 額	39,072,000 円
(5) 処 分 予 定 先	三井住友信託銀行株式会社（信託口） （再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行（信託口））
(6) そ の 他	本自己株式処分については、金融商品取引法による有価証券通知書を提出しております。

2. 処分の目的及び理由

当社は、2017年2月9日付取締役会において、当社取締役（社外取締役を除きます。）及び執行役員（以下総称して「取締役等」といいます。）の報酬と当社の中長期的な業績及び株式価値との連動性をより明確にし、取締役等が株価上昇によるメリットを享受するのみならず、株価下落によるリスクまでも株主の皆様と共有することにより、当社の持続的な成長と企業価値向上に貢献する意識を高めることを目的として、株式報酬制度（以下、「本制度」といいます。）を導入し、現在に至るまで本制度を継続しております。

本制度の概要につきましては、2017年2月9日付「役員退職慰労金制度の廃止及び株式報酬制度の導入に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、取締役等に対する本制度の導入につきましては、2017年3月29日開催の第67期定時株主総会において承認決議されております。

本自己株式処分は、本制度のために設定済みである信託（以下「本信託」といいます。）の受託者である三井住友信託銀行株式会社（信託口）（再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行（信託口））に対して行うものであります。

処分数量につきましては、本制度導入に際し当社が制定した株式交付規程に基づき、信託期間中の当社取締役等の役位及び構成推移等を勘案のうえ、取締役等に交付すると見込まれる株式数に相当するものであ

り、その希薄化の規模は、2022年6月30日現在の発行済株式総数15,315,604株に対し、0.29%（2022年6月30日現在の総議決権個数143,100個に対する割合0.31%。いずれも、小数点以下第3位を四捨五入）となります。当社としましては、本制度は取締役等の報酬と株式価値の連動性を明確にし、中長期的には当社の企業価値向上に繋がるものと考えており、本自己株式処分による処分数量及び希薄化の規模は合理的であり、流通市場への影響は軽微であると判断しております。

（注）発行済株式総数及び総議決権個数につきましては、2022年6月30日を基準とし、2022年7月1日を効力発生日とする普通株式1株につき2株の割合による株式分割を調整した数値を記載しております。

（ご参考）本信託に係る信託契約の概要

委託者	当社
受託者	三井住友信託銀行株式会社 （再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行）
受益者	取締役等のうち受益者要件を満たす者
信託管理人	当社及び当社役員から独立した第三者
議決権行使	信託の期間を通じて、本信託内の当社株式に係る議決権は行使いたしません
信託の種類	金銭信託以外の金銭の信託（他益信託）
信託契約日	2017年5月26日
信託の期間	2017年5月26日～2027年6月末日（予定）
信託の目的	株式交付規程に基づき当社株式を受益者へ交付すること

3. 処分価額の算定根拠及びその具体的内容

処分価額につきましては、最近の株価推移に鑑み、恣意性を排除した価額とするため、2022年7月28日（取締役会決議日の直前営業日）の東京証券取引所における終値である888円といたしました。取締役会決議日の直前営業日の終値としたのは、取締役会決議日の直前の市場価値であり、算定根拠として客観性が高く合理的なものであると判断したためです。

当該価額については、取締役会決議日の直前営業日の直近1ヵ月間（2022年6月29日～2022年7月28日）の終値平均867円（円未満切捨て）からの乖離率が2.42%、直近3ヵ月間（2022年5月2日～2022年7月28日）の終値平均839円（円未満切捨て）からの乖離率が5.84%、あるいは直近6ヵ月間（2022年1月31日～2022年7月28日）の終値平均795円（円未満切捨て）からの乖離率が11.70%となっております（乖離率はいずれも小数点以下第3位を四捨五入）。

上記を勘案した結果、本自己株式処分に係る処分価額は、処分予定先に特に有利なものとはいえ、合理的と考えております。

また、上記処分価額につきましては、取締役会に出席した監査役全員（4名、うち3名は社外監査役）が、処分価額の算定根拠は合理的なものであり、処分予定先に特に有利な処分価額には該当せず適法である旨の意見を表明しております。

4. 企業行動規範上の手続きに関する事項

本自己株式処分は、①希薄化率が25%未満であること、②支配株主の異動を伴うものではないことから、東京証券取引所の定める有価証券上場規程第432条に定める独立第三者からの意見入手及び株主の意思確認手続きは要しません。

以上